■実施日時

合奏練習① 8月20日9:00〜12:00
合奏練習② 8月25日9:00〜12:00
合奏練習③ 9月10日9:00〜12:00
講師練習　9月11日20:00〜22:00
　　9月21日9:00〜12:00
合奏練習④ 9月23日9:00〜12:00
リハーサル　9月24日9:00〜10:15
コンサート　9月24日10:30〜11:30

■実施場所

合奏練習①③④ 市民会館音楽室
合奏練習② 構成員細木原光紗宅
講師合わせ練習(2回)　構成員細木原光紗宅
リハーサル・コンサート　スイングホール

■事業内容

●曲決め
　合奏曲は『となりのトトロ』より「さんぽ」と、
　『リトルマーメイド』より「アンダー・ザ・シー」の2曲に決定
●募集チラシ作成・チラシ配布・メンバー募集
●パート決め・編曲・個人練習
●合奏練習①
　合奏指導：原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗
　　(講師略歴はコンサートプログラム参照)
　合奏参加者：19人
　内容：自己紹介、パート練習、合奏練習
●合奏練習②
　合奏指導：原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗
　合奏参加者：11人
　内容：自己紹介、パート練習、合奏練習
●合奏練習③
　合奏指導：原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗
　合奏参加者：32人
　内容：合奏練習
●合奏練習④
　合奏指導：原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗
　合奏参加者：28人
　内容：小物打楽器パート練習、合奏練習、
　　コンサート当日の動き確認・練習
　　市役所田辺様、社会教育委員岡本様が視察
●講師合わせ練習(2回)
　参加者: 原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗、末永亜裕美、藁科基輝
　内容:編曲物の音確認、全6曲練習
●リハーサル
　合奏指導：原田佳菜子、田中涼子、細木原光紗
　講師演奏：藁科基輝、末永亜裕美
　合奏参加者：35人
　内容：講師演奏合わせ、合奏入退場・演奏位置確認、楽器移動の確認

●コンサート

○プログラム　1，アイネ　クライネ　ナハト　ムジーク

2，昭和・平成・令和Jポップメドレー

3，情熱大陸

4，合奏『となりのトトロ』より「さんぽ」

5，『リトルマーメイド』より「パートオブユアワールド」

6，『リトルマーメイド』より「アンダーザシー」

○来場者

全102名（うち武蔵野市在住在学在勤75名)

年代別では、

未就学児15名、小学生　18名、中高大学生0名、成人51名、60歳以上18名

■募集、広報

●チラシ作製

5月　チラシ完成

7月　補助金交付承認を受け、参加費などを修正

●チラシ配布

むさしのプレイス　8月40枚

市民会館　7月10枚　8月20枚

スイングホール　8月20枚

スイングビル11階　8月30枚

市役所生涯学習スポーツ課窓口　8月8枚

●ポスター

スイングホール

●その他

構成員や合奏参加者から直接勧誘

●効果

ポスター、チラシを見ての予約3名

その他は構成員や参加者からの勧誘による予約

■成果、効果

●合奏

最初は集中力続かなかった子達が、練習を重ねることで長時間の練習ができるようになり、他パートの練習中は静かに待ったり、他の演奏を聴けるようになった。

今までやったことない楽器にも果敢に挑戦して、みんなと演奏できるくらい上手になった

人と合わせることの難しさを知り、日頃演奏している楽器の上達にも繋がった。

参加者の年齢は幅広く、年齢を超えた関わりがあって良かった。子どもの頑張りに大人はパワーをもらい、子どもたちは大人の演奏に刺激を受けていた。

練習から本番まで、楽器運びなどの準備から自分たちで行うことで、いつも何気なく楽しんでいるコンサートの裏の大変さも知ることができた。また、一人一人が自分に出来ることをやろうとする姿勢が子どもたちにも見られた。

●コンサート

演奏者に小さい子も沢山いたので、小さい子を連れた方も気軽に来場できた。

来場者無料にできたことで、普段音楽に触れる機会が少ない人も来場しやすく、また、合奏だけでなく、講師の方による本格的な演奏も聴いてもらうことができて良かった。

来場者からは、来年は合奏に参加したいという声もあちこちで聞かれ、これからの活動につながるコンサートになったと感じた。

■その他所感、今後の課題

子どもたちが音楽聴くことを経験することで、ホールに足を運ぶということを身につけ、聴く力をつけるということは、今後の文化の発展において重要なことである。今回の集客を通して、普段音楽に親しみのない人も知人が出演する

ことで興味を持ち、ホールに足を運ぶきっかけになると感じた。一方でチラシやポスターによる集客力は弱かった。チラシやポスターを置いてもらえる場所があまりないのも一因だと思うので、もう少し市と協力して多様な施設に配れると良かった。

コンサートの来場者に中高生がいなかったが、小学校高学年から高校生のような多感な時期に音楽に触れることが、文化的活動を長く続けるということにつながると思うので、その年代をどのように集客するかが課題である。

今回は補助金の助成を受けたことで、合奏参加費、コンサート入場料を抑えることができたが、今後補助金なしで開催するには、参加者や来場者の負担が大きくなり、ますます音楽に興味のない人たちの参加が難しくなることが予想される。そうなると合奏を楽しむ会の目的から離れて行ってしまうことが懸念される。